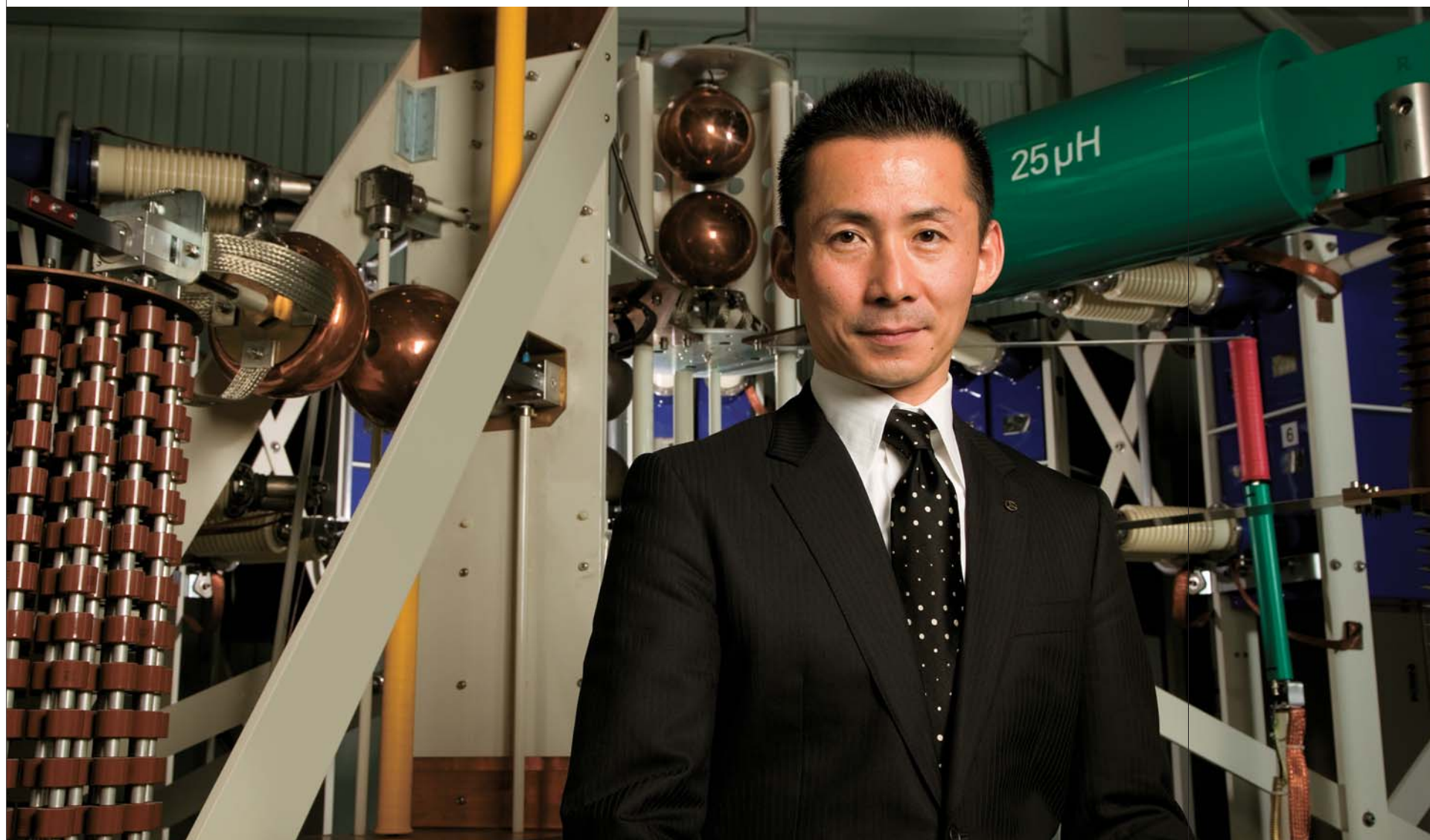




# 自然の脅威から「安全」という目には見えない企業価値をご提供いたします。

株式会社昭電 代表取締役社長 太田 光昭 氏

この夏も日本各地で地震とゲリラ豪雨の被害に見舞われた。地震や雷が情報システムに与えるリスクから企業を守り、安全で信頼性の高いビジネス環境を構築することは、今や重要な経営課題となっている。総合防災メーカーとして企業のBCP(事業継続計画)や危機管理をサポートする、昭電の太田光昭社長に聞いてみた。



## 安全対策が企業価値を高める

情報通信システムが、社会のライフラインとして急速にその存在感を増す中、システムの信頼性・安全性は、社会全体の重要な課題となってきました。これらのシステムのトラブルは、社会問題にまで波及する危険性ははらんでいます。

特に問題となるのが地震や雷などの天災への対応です。建物の揺れで情報通信機器を搭載したラックが倒れ、サーバーやストレージが破壊されれば、企業の重要な経営資源である情報データを一気に失い、取り返しのつかない事態になります。自社の業務が停滞するだけでなく、顧客・取引先、さらには社会にも大きな影響を及ぼします。

自然災害は防ぎようがない「天災」と考える経営者もいらっしゃるかもしれま

せん。だが、地震や雷の被害を防ぐために必要な対策を講じなければ、天災ではなく「人災」と言えます。逆に十分な安全対策を講じていくことは、見えない企業価値をもたらすはずで

す。こうしたニーズに応えて、昭電は創業以来、『情報化社会に安全と信頼を提供する』をスローガンに、信用を重んじ、確実を旨とすることを経営信条として、高い技術を通じて信頼性と品質の高い製品を提供してきました。

## 総合防災企業としてワンストップ対応

1965年に電子計算機用電源装置の製造・販売を行ったのが、当社の始まりです。その後、雷害・地震を中心とした災害対策や、設備建設工事などにフィールドを広げてきました。

現在では、電力、放送、通信、金融、鉄道など、ミッションクリティカルな企業に、災害対策はもとより、情報通信ネットワークの核であるデータセンターの構築と運用のバックアップ、セキュリティシステムや二重床技術の建設・設備工事など、多岐にわたるBCPソリューションを提供しています。

雷害対策や地震対策など各事業を専門にしている企業は、数多く存在します。しかし製品の製造販売からシステムの企画・設計、保守・工事・コンサルまで、ワンストップかつ複合的にBCPや危機管理を支援できるのが当社の強みです。



三次元地震波発生装置



サンダーブロッカー SPR-TB-CAT5e

## 創業45周年へ、変わることはない「本物志向」

私たちが目指すのは「本物志向の開発主導型の企業」です。1万8,000坪の広大な敷地を持つ成田工場には三次元地震波発生装置を備えています。また千葉市にあるテクノセンタには世界最大級の雷電流試験ができる雷インパルス発生装置を備えています。ともに世界でもトップクラスの研究開発力と最新設備を備えた試験施設として、他に例を見ない独創的な事業を展開しています。これほどの設備投資を行ってきたことは、当社ならではの「本物志向」を実現するためです。当社にしかつくることのできない本物の製品の必要性を、お客様が認めてくださる。本物だけが持つ価値が、何よりのPRとなって、当社の製品が市場に広がっていったのだと自負しています。

時代の先端を支える当社のテクノロジーは、常に進化を続けなくてはなりません。創業45周年を迎えるに当たって私たちは、情報通信の災害対策という分野で、世界一の会社を目指します。職人の町・墨田区に本社を構え、日本人ならではの技や知恵という財産を、未来へと繋げ、無限に広げていきたいと考えます。